



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞



京都南山城の茶畑

＜境 寛・画＞

- * 「新会員ですよろしく」
- * 6 月例会 「橿原市昆虫館と周辺の散策」
- * オプション・東海自然歩道「鳥見山公園～長谷寺」
- * 佐保台小学生の田植え体験学習
- * 「ならやまプロジェクトレポート」
- * 当会報誌の「新名称」募集！！
- * 鳥シリーズ・自然俳句他
- * 各種行事案内（7 月・8 月）
- * 「自然工作教室」－講師・受講生募集！！
- * 「表紙ペン画によせて」

2	3
	4
	5
6	7
	8
	9
10	11
12	13
	13
	14



奈良に魅かれて

赤塚 秀一

奈良に暮らして26年になりますが、奈良の里山や植物・森の自然、文化・歴史が大好きです。ゆったりとおやかに春の風のように時間が流れていきます。奈良・人と自然の会に入会させていただき、皆様方といっしょに農作物を作ったり、里山を整備したり、美しい大和の自然と山を歩くことを楽しみにしています。特に技術はありませんが、お酒は飲みます。宜しくお願いします。

入会にあたって



河合 邦子

今年3月シニア自然大学校16期を卒業し、奈良・人と自然の会に入会させていただくことになりました。昨年貴会に教育実習に行かせていただいた折、会員の皆様が温かく接してくださり、また会の活発な活動を目の当たりにして感激した事を思い出します。

私は、今までボランティア活動に参加した経験は無く、入会を機に新しい事に挑戦してみようと思っています。また定例行事には興味のある行事が沢山あって、これもまたたいへん楽しみにしています。

「田舎大好き人間」です

夫婦で入会しました。 奥山 勝三・節子

私は戦時中に大阪から斑鳩町に疎開して来てそのまま居付き自然の中で育ちました。他県から嫁してきた妻ともども「田舎大好き人間」です。その後転勤で東京や札幌等の都会に住みましたが、田舎の良さが忘れられず河合町まで戻って来ました。そして住まいの近くで自然に近づく場所を求めていたところ、奈良・人と自然の会にたどり着きました。

今は二人ともバドミントンや観光ガイドなどのボランティアやその他の所用もあるため、あまり参加出来ていません。

自然保全のためにお役に立てればと思っています

のですが、思うだけで終わってしまっているのですが少しでも前進出来ることを願っています。

夢のインプリ 「地元の子供と草木観察会」

川口 ゆみ子

6月早々小学校でインプリを体験。地元の婦人会「交通安全母の会」でも小学校で自転車の乗り方教室に参加。101号の倉田さんの文章「自然に親しむ子供は性格も素直で社会性がある」ことを2校の小学校参加で実感した。残念にも、地元の小学校には「自然教育」が無いらしく、校内には花も少なく花壇も寂しい姿。児童も「しつけ」が見受けられず、校長も草木観察会に「へえー」。「ここでインプリできるかな」の夢は千の風に乗って泡に。でもインプリは必要だと思う。

楽しく、無理なく、安全に

高本 実男

今年3月にシニア自然大学校を修了しましたが、昨年入学後すぐに教育実習先にならやまプロジェクトがあることを知り、びっくりしました。息子や娘が子供の頃によく散歩していたところだったからです。修了後は地元で地域に貢献できる活動をと考えていましたので、即入会いたしました。

例会では、ならやままでの活動と違って、様々な草木の同定など楽しい一日が満喫でき、入会してよかったと思っています。

このような活動には何の特技、経験ありませんが、よろしく願いいたします。



癒される景観が魅力

竹部 英子

今年、自然大学校の本科を修了した16期、風組の竹部英子です。教育実習で奈良、人と自然の会に参加された方がとても良かったとの評判を耳にして教育実習最後の2月に参加させていただきました。里山の手入れ、観察路、畑の作業、植物観察、子供達とのふれあい行事など、多彩な内容に驚きました。特に明るく開かれた景観にとっても癒されました。大阪市在住で少し遠いですが、景観に癒されながら参加させていただきます。

宜しくお願いいたします。

自然農法に関心が！

萱野 勉

私は、約25年程家庭菜園をしております。

3年前より連作障害や病害虫に大変悩んでいました。昨年11月に、中学校の同窓会で鈴木さんに出会い自然農法（有機栽培無農薬）の話聞き興味を持ちました。今年3月に、ならやま里山林に見学に行き自然環境もよく感激し入会することにしました。その日は、堆肥（チップ）をいただいて帰りました。4月8日（木）活動日、里芋の植え付け、ジャガイモマルチ張り、ナスのうね作りをして終わりました。5月13日（木）活動日にスナックエンドウの鳥よけをしているときに1つ食べてみるとすごく甘くておいしかったです。これが自然農法だと感激しました。阿部会長さん、幹事さん、会員さんはじめあたたかく迎えて頂き有難うございます。これからも体が続く限り、続けたいと思います。

里山に興味を抱いて・・・

清水 和彦

大阪の堺で育ち、会社に入って兵庫県内で勤務していました。転勤で初めて奈良に住んでから、もう三十年近くになりました。

退職後は夫婦でよく家の近所を歩きます。佐紀・佐保路や平城宮跡、時には春日奥山…。自然がすぐそこにあり、しかも歴史や文化遺産と一体となっているのが気に入っています。

最近、写真家の今森光彦氏の講演を聴いて、＜里山＞に興味を持ちました。まだ名ばかりの会員ですが、会の活動を通じて里山の自然にかかわることができたらと思っています。



自己紹介

磯貝 猛

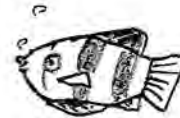
私の「奈良・人と自然の会」との出会いは顧問の川井先輩と生駒市の「緑の市民委員会」などで一緒に、市街地のみどりの調査をさせていただきましたご縁で、「里山ボランティア講座」を生駒市の協力を得て開設、地元：いこま里山クラブや当会の川井顧問、阿部会長のご支援で昨年春に『グリーンボランティア・いこま宝の里』を立上げ、5月に1周年を迎えたところです。今後とも「里山の保全」を含

めいろいろと勉強させていただきたく宜しくお願いします。

奈良・人と自然の会（ならやまプロジェクト）を選んだ訳・・・・・・・・・・

大澤 教男

木や花、草の名前は一向に覚えれないので、もう少しはマシになるかな？と思い高等科に入りました。只、自分として今、自然の何かに貢献出来るとすれば木や花の説明はできないので、とにかく汗を流して少して何かボランティアみたいな事をしたいと考え、殆ど労働力、少し勉強、そんなサークル（怒られそうですが）を選んだら「ならやまプロジェクト」になった次第です。汗を流すと気持ちがスッとします。〇



市川 博之

居場所を求めて

私は現在、奈良の王寺近傍に住んでいます。「自然」に目を向けるようになったのはつい最近のことで、歩いているといろいろな花・木・が目に入ります。これらの自然を学ぶために昨年シニア自然大学本科に入りました。本科の種々のサークル実習を通じてどのサークルで継続して活動をやろうかを考えた時、本会しか出てきませんでした。それは平城山里山林のすばらしさ、会員間の雰囲気等からです。皆さんよろしくをお願いします。

「奈良・人と自然の会」入会後の抱負

杉本 登

私が三郷町に住み始めてもう30年以上が経つ。香川県生まれの私にとってももはや故郷は奈良であると言っていいであろう。入会後やりたいことは、貸農園を今年から始めたので野菜の作り方を覚えたいこと。里山整備を通じて、奈良の歴史談議を諸兄と語り合いたいと思っている。奈良時代は続日本紀にかなり詳しく記述されており、元明、元正、孝謙の3人の女帝陵もならやまのベース近くにあるのでゆっくりと歩いてみたいと思っている。



橿原市昆虫館と周辺の散策

6 月 2 日（水）、近鉄大阪線大福駅に 09:50 集合、参加者は 14 名、朝から快晴。

大福の市街地を抜け、一顧成就の御利益があるという御厨子（みずし）観音妙法寺の傍らから細い里道に入り、里道に続く万葉の森の東側遊歩道を経て、新装なった橿原市昆虫館に 10:40 到着。

事前に解説をお願いしてあったので、まず研修室で松本指導主事からお話を伺うことになった。お話は「新装研修室の使用はあなた方が最初」という切り出しで始まった。灼熱の地球に硫酸の海ができ、海面が下降して陸地が広がり、海の温度も下がって初期の生き物が現れ、海水中に植物が生じ、それが陸上に進出、海水中で生まれた初期の節足動物もその植物を追って上陸、魚類の一部も続いて上陸して両生類に進化し……特に昆虫類は爆発的に増えたというお話が前半にあった。

後半は、ホタルは清流の生き物のように言われるが、全くの清流では餌になるカワニナが育たないので濁り加減の川がよいとのこと。川は少々濁っていても大丈夫で、ホタルを呼び込み、増やすことはそれほど難しいことではないとか、ホタルは想像以上の距離を移動するとか、遠いところからホタルを移して放つのは種の保全上は好ましくないとか、というような大変興味深いお話があった。その中で、私たちのならやま地区にもホタルが自然にやって来て住み着くことは十分期待できるというような嬉しいお話もあり、40 分ほどお話を聞き入った。

その後、研修室をお借りして昼食。その後は各自で館内見学。館内は見学を楽しくする趣向や仕掛けがいろいろ作られていて、興味津々のコーナーが随所にあった。

放蝶温室では放つてあるチョウの中に普通のアサギマダラもいたが、止まっているところへ手を差し出しても少しも逃げようとしない。飼い慣らしたペットのようである。アサギマダラはおっとりしたチョウではあるが、ならやまのフジバカマの花に来ているときには手を伸ばしすぎたり、カメラを近づけすぎたりすると飛び立ってしまうのでたいへん不思議に思えた。



13:30、昆虫館を後にして、万葉の森遊歩道（西側）を経て天香久山へ登る。頂上では川井顧問から天香久山にまつわるお話を伺った。

天香山神社を経て下山。奈良文化財研究所都城発掘調査部資料室に立ち寄り、藤原京跡出土品などを見学。

この後、藤原京跡区画の南縁を通って本薬師寺跡に至り、ここでも川井顧問から解説を

伺う。本薬師寺跡から 10 分弱で近鉄橿原線畝傍御陵前駅に到着、15:55 解散。

担当は小嶺・菊川でした。ご協力ありがとうございました。

（文責：菊川）

（写真 上：橿原市昆虫館前 下：同所巨大トンボ像）



オプション行事 「東海自然歩道」鳥見山公園～長谷寺

実施日：22年6月11日(金) 快晴

参加者：29名

“奈良県下東海自然歩道を歩く”第2回目は、近鉄榛原駅に集合し バスで玉立橋まで行き ストレッチ体操で体をほぐして出発しました。近鉄奈良線の信号機事故のため少しダイヤが乱れましたが 遅滞なく出発できラッキーでした。さわやかな風が身体を吹き抜ける絶好の観察日和、強い日差しの中でも、木陰はとても快適でした。

大和富士と言われる額井岳(813m)の雄姿を後ろに見て鳥見山公園を目指します。草本、樹木、野鳥などのそれぞれの力強い先達のご参加で、道中さまざまな観察ができました。5年ぶりの青龍寺では、ばっさりと力枝が切り取られた「モクゲンジ」の痛々しい姿に驚きました。眼を移しますと境内の大きな「クスノキやケヤキ」も、主幹がばっさりと切り取られ 道端にごろんと横たえてありました。「モクゲンジ」は腐れが入っていて仕方がない面もありますが、立派に梢を伸ばしていた境内の木は、まことに無残に思いました。道端の[ノアザミ]の深い色に感動を覚え、香り高い三つ葉に故郷の野を思いの歩みでした。稲がしっかりと根を張った棚田を左右にしながらスギ木立ちへ入ります。多くの草本、樹木の名が飛び交いました。

見晴台展望台では、大和平野、遠くに金剛・葛城山系、宇陀地方の山々、そして二上山がかすんでいます。「日本書紀」にしろされた神武大和平定旧跡＝鳥見山公園に到着昼食です。さわやかな木陰はひと眠りしたいような心地です。勾玉池に咲きそろった「スイレン」が見事でした。高束城跡へ登りアカマツによく寄生する「マツグミ」を探しましたが見つかりませんでした。「ネジキ」の白い壺形の花が目を楽しませてくれました。ササユリやホタルブクロが見られます。初瀬ダム周遊道路では、ハンゲショウ、マタタビを多く見ました。長谷寺に到着しますとキセキレイが電線の上でさえずつています。小さいが敏捷そうでした。梅雨に入る直前 好天気にも恵まれたことを感謝し 長い門前町を帰途につきました。

阿部和生記



一粒のたわわに実れと種を蒔く

鈴木 末一

「ならやま」の水田は、南側は昨年に引き続き「佐保台小ファーム」、北側は会員用にとの要望に応じて整備し、昨年の約2倍の面積に拡張しました。

5月25日、佐保台小学校5年1組の児童16名が、植え方について説明を受けた後、田植実習を体験しました。おそろおそろ田んぼに入ると、始めのうちこそ泥の感触に「気持ち悪い」を連発する子もいましたが、すぐに慣れた様子でみんな楽しそうに苗を植えていきました。この日は天候にも恵まれ、1人当たり60数株ずつ、全員で約1,000株の苗を、30分余りの時間で手際よく植え付けてくれました。早速、感想文を寄せてくれましたので、内容を抜粋してみました。

S：土の硬さや苦労などを体験することができました。

M：こんな近くに田んぼがあるなんて驚きました。田んぼに入った時どろっとして、最初は気持ち悪かったけど、だんだんなれてきました。

Y：話を聞いて、まさかあの場所が草が沢山生えていたなんてとびっくりしました。ちょっとずつみんなできれいにしていくのはすごいですね。生き物が沢山いて自然だなあと思いました。

N：会の皆様がクラスみんなに田植えや苗の植え方を教えてくださってうれしかったです。苗を土の中に入れてやるときの感触がとても気持ち良かったです。

O：コツをわかりやすく説明してくださってありがとうございました。裸足で田んぼの中に踏み込んだときの感触がとてもやわらかくてびっくりしました。

I：ひいじいちゃんが作るお米はとてもおいしく大好きでした。今年の田植えに僕は手伝いに行きました。田植機で植えていましたので、あっという間に終わり僕の出番がありませんでした。でも今日は、自分の手で植えたので良かったです。

W：もらった苗を家でも育ててみます。りっぱになってくれたら嬉しいです。

N：クラスでは、米が有名な所をさがしたり、どのようにして作っているのかをいろいろ調べました。日本よりフランスのほうが出荷が多いのでびっくりしました。意外だったのはアメリカでけっこうお米を食べていることでした。日本の米がいずれなくならないか心配になってきました。

O：僕は米作りは簡単だろうと思っていました。でもそんなに簡単ではなかったのでびっくりしました。僕たちは本当に育つのかを楽しみに待っています。

Y：私はおたまじゃくしを初めてさわれました。田植えをしているときに足がぬけなくなりましたが、皆さんから「だいじょうぶ」などの声をかけていただき、とてもうれしかったです。早く収穫したいです。どれだけ大きくなるか楽しみです。

M：苗やロープはりや土の手入れ、そして田植えをしやすいように横のロープを二人で動かしてくださってありがとうございました。今年のフェスティバルで、保護者の人たちにお米のクイズなどをしたいです。

I：ふだん食べているお米は、植えるのだけでも大変なのがよくわかりました。

育てている人は、工夫をしてお米を精一杯育てているのがわかりました。

N：田植えをしてみているいろんなことが学べたと思います。植えたものが何本になるのかも楽しみです。お米ができたら餅にしたり赤飯にしたいです。

N：最初田植えてむずかしそうだなあと思っていたけど、だんだんなれてきました。足でふんだところの土が下にいつているので、苗をさすときにちょっとむずかしかったです。だからあまりふまないようにがんばりました。

M：田んぼの土は、あんなにやわらかくて上の方はあったかいけど、下の方は冷たいということが初めてわかりました。きちょうな体験をすることができありがとうございました。

Y：種から芽が出るまで大変だったと思います。毎日一生懸命に水をあげたりと、とても苦労したと思います。

子ども達の感想文と礼状に添えて、担任の西谷先生からも、次のようなメッセージを寄せていただきました。

「田植えをさせてもらった翌日から、さっそく何人かの子たちが、田の様子を見に行ったようです。また、苗をいただいて帰った子の中には、赤ちゃん用のおふろのようなものを使い、本格的な田を家に作るという子もいて、どの子も、これからの学習を、とても楽しみにしているようです。」

7月下旬に生育観察、秋には稲刈り、稲架け、脱穀、粃摺りなどが予定されており、これらの体験をきっかけにして、子ども達が農業に対して興味関心を抱いてくれるものと確信しています。さらには、食の安全や食料自給率の問題などの発展学習に、積極的に取り組んでくれることも期待しています。



ならやまプロジェクト・レポート 22年6月



5月25日（火）晴 田植え 佐保台小学校田圃の実習 参加者42人

- ・2倍に拡張された田圃では、午前中“さおとめグループ”が紅の襷もかいがいしく北半分の田植えを完了しました。昼からは、いよいよ佐保台小学校5年生17名が登場、初体験の田植えに挑戦しました。世話人の鈴木さん以下の周到な準備と指導により、約1時間の奮闘の末、見事に早苗を植え終わりました。「豊葦原の瑞穂の国」と言われた昔からの変わらないやり方で赤米の田植えを経験した子供達は、果たして何を感じたでしょうか。別掲レポートをご参照ください。

5月29日（土）晴 玉ねぎ収穫 堆肥の切返し 里山整備 参加者23名

- ・今年の玉ねぎは、苗作りから始めました。土作り、種まき、定植、施肥、除草と皆で丹精を込め、病害にも悩みながら収穫した玉ねぎは貴重な「有機栽培、無農薬」そのもの。それぞれが大切に持ち帰りました。
- ・エコ堆肥づくりは有機栽培の基本ですが、次第に軌道に乗ってきました。ならやまの竹や笹のチップに庭園業者の剪定チップ、牧場からの厩肥を加え1年がかりで熟成します。皆の嫌がる堆肥の切返し作業も、男子全員で取組めます。堆肥場には、カブトムシの幼虫が多く棲みついで、気の早い成虫がもう1匹2匹と出始めています。

6月3日（木）晴 里山整備 ニンニク収穫 堆肥の切返し 菜種刈取り 参加者51名

- ・里山整備は急ピッチです。ならやまプロジェクトの参加者はこのところ大幅に増加して、里山作業にも毎回15人前後の要員が確保できるようになりました。お陰様で「学びの広場」から「たけのこ平」にかけての枯倒木や下生え整備が急ピッチで進み、徐々に里山の面影が甦りつつあります。会員の皆さん、ぜひ一度ご検分ください。
- ・ニンニクの出来栄は今年も順調で、収穫する女性陣はニコニコ顔です。品種は高級ブランドの「青森ホホワイト6片」、もちろん有機・無農薬栽培ですから、知る人ぞ知る貴重品。わけ知りのメンバーの方々に次々と引き取られていきました。
- ・菜種の刈取り（菜の花プロジェクト）
ほどよく熟した菜種の刈取りと、ハサ掛けを実施、6月10日には脱穀の予定です。

6月10日（木）晴 里山整備 堆肥の切返し 草刈り 菜種の脱穀 参加者35名

6月14日（月）曇り 野鳥調査 参加者 3名

6月19日（土）曇り ビオトープ生物調査 椎茸ホダ木天地返し 参加者21名

- ・ビオトープ生物調査チーム

ならやまに作ったビオトープに今後どのような生物が棲みつくかは興味深々です。

PTリーダーの塩本さん、調査チームの菊川・木村裕さんは、訪れたシニア大・水生生物科の皆さんと調査方法について協議しました。そのあと、第一回目の水生動物調査を実施し、多くの発見がありました。ご関心ある方は是非調査にご参加ください。

- ・本日のジャガイモ祭りは、悪天候続きのため、24日に順延されました。

（古川祐司 記）

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

守口 京子

6月17日(木)梅雨の晴れ間の一日、花壇ではアジサイが美しく咲き始めましたが、山の中はツツジも終わりちょっとさびしくなりました。でもネジキの白い花が遊歩道のいたるところに落ちていて初夏の里山は気持ちがいいです。

草花…クララ、コバンソウ、ヒメコバンソウ、チガヤ、ミヤコグサ、ヒメスイバ、ウラジロチチコグサ、ツルアリドオシ、コメツブツメクサ、コモチマンネングサ、ノアザミ、オヘビイチゴ、ムラサキサギゴケ、ハハコグサ、ムラサキカタバミ、カタバミ、コオニタビラコ、ハルジョオン、オオパコ、シロツメクサ、タガラシ
木の花…ネジキ、クリ、ネズミモチ、ムラサキシキブ、ソヨゴ、イヌツゲ

よく増えて嫌がられることもありますがコモチマンネングサは元気に咲いています。色も形もはっきりしています。



ならやま鳥だより

小田 久美子

6月14日(月)。3人で観察。ホトトギスの声とカワセミ・ムギマキを見ました。

まってまーす

会報誌の「新名称」を募集！

会報誌「奈良・人と自然の会」は、この5月に100号を迎えました。

これを機に6月から編集委員会を発足させ、いろいろな面から一層親しみやすい会報誌にするよう努力してまいります。早速、今月号から表紙を季節感あふれるイラストに変更しました。

現在、会報誌の名称は、会の名前をそのまま使っていますが、新たにもう少しやわらかく、親しみやすい名称に変更することになりました。つきましては、広く会員の皆様から、「新名称」を公募いたします。当会の会報誌にふさわしい「新名称」を応募いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

編集委員長 勝田 均

応募要領

- ・新名称の考え方；「奈良・人と自然の会」の理念と活動を的確かつ簡潔に表し、親しみやすい名称であること。
- ・締切日； 8月20日(金)
- ・選考； 応募された「名称」を編集委員会で選考し、幹事会で決定します。
- ・応募先； 事務局 寺田 孝



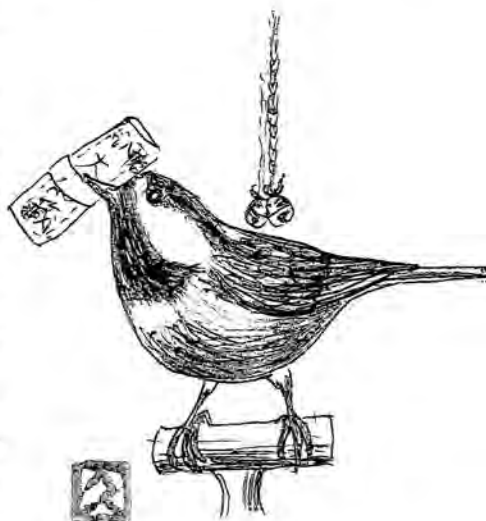
ヤマガラ

小田 久美子

《この内も 猶うらやまし やまがらの
みどほどかくす ゆふがほのやど》

寂連法師

子供の頃、神社の境内でお神籤を持って来る小鳥を見た人は多いかと思います。とても賢く可愛い鳥、それが「ヤマガラ」でした。どうして逃げないのか、どう躡けたらこんな事が出来るのかと不思議に思っていました。息子が幼稚園の頃、まだ目も開かない裸のヒナから手乗り文鳥にした経験もあって、拾ってはいけないことも知らないで、息子が巣から落ちたスズメの雛を持って来たりしても、育てあげ手乗りにしました。失敗も沢山・涙も沢山の経験を経て、自然の中で彼らを見せてもらうのが一番なのだと判って来ました。ヤマガラは人を怖



がらない鳥で、近くで「ニー ニー ニー」とネコのような鳴声がしたらきっと彼らです。毒があるというエゴの実が好物で、秋に実が熟するとせっせと隠し場所との間を往復する姿が見られます。その倉庫(?)を見たら。。。ちょっと、いえ、かなりびっくりしますよ。ならやまでは、ほとんどの季節にこの鳥とシジウカラ・メジロ・エナガに出会えます。秋から冬にかけてはこの中にコゲラが混ざり可愛い声がこだましています。是非ならやまの鳥にも会いに来て下さい。

自然俳句欄

代掻きの足の抜きさしとほほほほ 秀 夫

人力の田作りは辛い。最年長 樋口 善雄 氏 頑張る。
転ばぬ様に。お気をつけて。

竹の子の砲弾^{おとこ}かかへ漢来る 秀 夫

里山の竹叢間伐。戦利品はでかい奴。こんな弾なら大歓迎。

夏蕎麦や打つそれぞれの手の捌き 秀 夫

ソバ文化クラブの実技研修のひとつ。麵棒の手さばき堂に入る。



雨にうたれる夏の天使たち

谷川 萬太郎

なにが悲しくて恨めしく涙を誘うの？ 梅雨空に隠れた夏の天使たちは何処にいるの？
さらされたその小さな身体を支えて はるか遠くの星影のワルツの涙が乾くまで待とう！
憎い雨に心濡らす夏の天使に慰めと勇気の言葉をあげよう とめどなく切なさがこみあげて
梅雨のしずくにべそをかき泣き虫顔の花たちは 肩よせ合って抱きあうように寄り添って
ある晴れた去年の夏の日を恋しがる 連なる玉露落ちてやらずの雨が軒先に忍び寄り
雨音に踏みつけられえぐられた土たちの悲痛な叫びもかき消される無常の雨よ！ 慰めも届かず
嘆くまい季節はそれぞれに味わい深い やがてけむる霧雨が晴れるまでじっと静かに堪えるだけ
早く夏の海に出会いたくて やがて訪れる季節のロマンに血が騒ぎ 東の空を仰げば ほら夏の太陽
だ！

ちいきじょうほう

★（イソヒヨドリを見習え）イオンでのイソヒヨドリ情報が入り、片道 40 分程をマリリンの散歩を兼ねて可能な限り出かけてみました。♂が♀を探しながら囀り、♀が来て求愛給餌が見られ、プレゼントの甲斐あってラブラブ。子育てかなという慌ただしい出入の日々が続く、カラスが覗き込んで♂が警戒して鳴く、♀が餌を咥えて巣立ちを促す様子、そして 5/22 いよいよ巣立ち。ヒナが一人で「おかあさ〜ん」と鳴く姿で♪・エンド。約ひと月半の感動ドラマでした。

数年前、学園前駅で綺麗な囀りを聞き、京阪電車のように季節外れの BGM を構内に流すようになって いやあねえ と思いながらホームに出たらなんと帝塚山学園の上で本物が鳴いていました。毎年囀りが聞こえ、今年は同じ頃ここも無事にヒナが巣立ったのを見ました。ハローワークで目撃されて 10 年以上になります。私だけでもここ数年で市内 4ヶ所、県下で 5ヶ所。 何があったのか鳥たちも経営(?)戦略を変え、生き抜く努力をしています。 (小田)

★（斑鳩より）家の公園の前のアキニレにメジロがいました。よく見ると、産毛のメジロのヒナが金網に掴まっています。

親鳥が来て小さな実を口に入れました。夫がカメラでヒナを撮りました。それから親鳥が来て餌をやるのを撮ろうと待ちました。親鳥はピーーと甲高く何度も鳴き、下りて来ませんでした。警戒していたのでしょう。かわいそうなので撮るのを止めました。少しすると親鳥は鳴かなくなりました。ヒナに必死で知らせていたのでしょうね。

(勝田)



イソヒヨドリ

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率（午前）60%以上の場合は中止※

『ならやま里山林プロジェクト7・8月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）
—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—
（案内地図が入用の方は、担当幹事までご連絡下さい）

日時： 7月 1日（木） 活動日

7月 8日（木） 活動日

7月12日（月） 野鳥調査（小雨決行）

7月15日（木） 活動日

7月24日（土） 公開イベント「里山の昆虫観察」

7月31日（土） 雨天予備日

8月 5日（木） 活動日

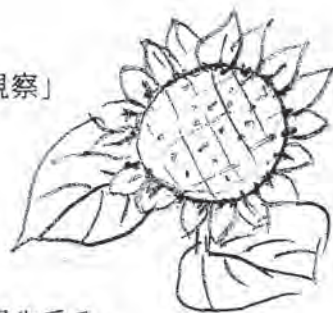
8月 9日（月） 野鳥調査（小雨決行）

8月12日（木） 活動日

8月21日（土） 活動日 シニア自然大学実習生受入

8月26日（木） 活動日

8月31日（火） 雨天予備日



集合： 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通： ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行（平日・土曜）

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:32発 JR 奈良行（平日）

8:30発 JR 奈良行（土曜）

①②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など：

・弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地にて用意）、暑さ対策にご留意ください

*環境保護のため、コップ・箸・椀などは各自でご持参下さい。

活動内容：里山整備、環境整備、笹・草刈、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸・
復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥・土作り

* 火曜日、金曜日は「自由活動日」ですが、活動される方は下記へご連絡下さい。

連絡先：担当幹事 古川

同・鈴木

<7月の予定>

7月例会「山門水源の森」研修観察会<7月3日（土）>

参加申し込みは定員に達しましたので締め切りました

☆ならやま野鳥調査

～野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による～

日程：7月12日（月）

出発時間・場所：7時・ならやま駐車場 *5～7月は夏時間です

小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

担当者：小田

・菊川

<8月の予定>

8月例会 積水ハウス研究所 ガーデンツリー・樹木研修会

「自産自消」を提案される講師の 畑 明宏先生。家庭菜園を自ら取組みながら住生活研究所では『5本の樹計画』を担当される樹木医。庭木は「3本は鳥のために、2本は蝶のために…」のCMでご存知の様に生態系のネットワークを広げる試みをされ「美しい庭」から「生命が宿る庭」を実践されております。畑 先生の講義と観察会で自然との係わり、大切さ、樹木の性質等を楽しく学びましょう。昼食はNPO法人けいはんな薬膳研究所の「あわさい」で薬膳弁当を用意いたしております。

日 時	8月24日（火） 午前8時40分集合 （夏場の為、涼しい内で開催いたします。）	
集 合	近鉄高の原駅・イオン高の原前 （改札口を出て陸橋を右方向）	
	・ 橿原神宮前<西大寺行急行>7:51…西大寺8:21着（乗換）8:25発…高の原8:29着	
	・ 難波<奈良行快急>7:50…鶴 橋7:56…西大寺8:22着（乗換）↑<京都市急行>	
講 師	積水ハウス住生活研究所 樹木医 畑 明宏 先生	
	『講義・生態系のネットワークと樹木観察会』（am 9:00～12:00）	
昼食会	医食同源 薬膳レストラン「あわさい」：薬膳弁当（@1200円）各自負担	
午 後	積水ハウス株式会社 『夢工場』 見学会 （pm 1:00～ 3:00）	
担 当	弓 場 厚 次	水 本 遼 真

* 「あわさい」の薬膳弁当準備の関係で、参加申込みをFaxかEメールでお願いいたします。
申込先：弓場厚次

「自然工作教室」開講 — 講師、受講生募集 —

当会では、イベント開催の際に小学生に抜群の人気を持つ「自然工作」の充実を図りたいと考えています。会員の皆さんにも、得意な「自然工作」をお持ちの方がたくさんおられると思います。その方々に講師をお願いし、「自然工作教室」を開講します。

つきましては、一品一芸に秀でた講師の方と「自然工作」に関心のある受講生を募集します。

沢山の方々の参加で、「教え、教えられる」場に出ればと思っています。

よろしくお願いいたします。

*開講要領

・日 時 8月30日（月） 9:30～15:00 （途中参加も可）

・場 所 佐保台地域ふれあい会館

・内 容 小学生を対象とし、30分～60分以内に出来る、材料調達が容易な自然工作

・連絡先 イベント・企画運営統括担当 寺田 孝

平成 22 年 6 月度幹事会議事録

日時：平成 22 年 6 月 1 日(火) 場所：中部公民館 司会：弓場、書記：西谷

【報告事項】

- ① 会員数 135 名
- ② 5 月例会「京都府立植物園」19 人参加 詳細は会報に記載
- ③ ならやまプロジェクト 5 月 7 回実施、参加者 173 名（前年度 83 名）
田植え、さつまいも植え付け、玉葱収穫、里山枯木倒木の処理、ビオトープ木道、
森林ボランティア保険登録、じゃがいも祭り 6/19 に延期、ナラ枯れ調査
- ④ 5/25 (火) 佐保台小 5 年生 16 人 田植え実習好評で実施
- ⑤ 「インタープリテーション入門講座」 7/7 (水)ならやま 受講生募集〆切 6/25
出前教室：左京小 (9/15、10/6)、佐保台小 (7/7：昆虫、10/20：校庭)
- ⑥ そば文化クラブ 5/28 笠そば（講演とそば打ち） 参加 10 人、
7 月例会「山門水門の森」研修観察会 申し込み受付中（25 名定員）

【討議事項】

- ① 今年度催事担当者の確認
- ② 自然工作勉強会の開催 企画担当者が計画し会報で公募する。
- ③ 会報編集会議 5/26 「名称」を柔らかくし、第 1 面にイラストと目次を入れる

【確認事項】

- ① 9 月例会「竜鎮溪谷から室生寺」9/14(火)、オプション「山の辺の道Ⅲ」9/18(土)
- ② 10 周年イベント行事について 担当：川井、弓場
準備委員会を 15 名ぐらいで構成し、日程、会場、規模、費用等を検討する。
- ③ 23 年度新春講演会の講師 奈良大学 水野正好先生に依頼する。

<表紙ペン画によせて>

境 寛

先月号まで、私の気ままに掲載頂いたペン画花歳時記に代えて、表紙にペン画をとの編集委員からの声がかかりました。私が下手の横好きで描いたもので良ければとお引き受けした次第です。京都南山城の高山ダムからの帰り、一番茶の茶摘みが終わり、きれいに刈り込まれた茶畑を写しましたが、ちょっと単調になってしまいました。

編集後記：*本号からイラストで飾る表紙に変わりました。ご感想をお寄せください。
さらに本紙の名称も親しみやすいものに変える方針です。会員のみなさんからの応募をお待ちしています！！*会報発送作業日：8月号の作業は7月26日(月)です。「西奈良ボランティアセンター」で午前9時からです。なお作業後、編集会議も行いますので、あわせてご参加ください。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX：

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生